

シリーズ

物流経営士 に聞く



物流経営士認定番号「525」

中田 純一氏

株式会社中田商事 代表取締役社長

全日本トラック協会では、業界の健全な発展と社会的地位の向上に向け、経営管理者層の人材育成を推進することを目的に、平成10年度から、各都道府県トラック協会等が行う人材育成講座の受講修了者に対して「物流経営士」の資格を付与する資格制度を設けています。全ト協が資格認定することにより、業界全体で研修意欲が高まり、人材養成事業が活発化することが狙いです。これまでの資格認定者は、1,300人を超えています。「広報とらつく」では、定期的に物流経営士にインタビューし、物流経営士の資格取得後のメリットなどを伺います。第2回は、第11期認定を受けた、中田純一氏（株式会社中田商事代表取締役社長）です。

物流経営士の受講のきっかけを教えてください。

弊社は平成7年に創業。その当時の事業内容は、阪神・淡路大震災後の瓦礫処理などを中心に産業廃棄物収集運搬からスタートしました。12年4月には法人として設立し、そこからは、

中核となる一般貨物運送事業、取扱事業のほか、倉庫業、特定労働者派遣事業、自動車整備事業などの周辺事業の事業許可を得ています。創業当初は、経営の基盤も分からず、今振り返れば算数の数字合わせのようなつまらない経営であったと思います。また、12年に法人設立した

人設立した。当時は自動車NOX・PM法の施行など、トラック運送事業を巡り相次いで規制が強化されました。この時は順法への対応に追われ、売上を伸ばすことだけに精一杯で、原価計算などはおろそかになっていました。しかし、売上が伸びる一方で、大きな赤字が発生したことから愕然としました。この時、事業経営の知識・経験不足を、また、「自己流」の経営に限界を感じて、経営知識を学ぶために物流大

学校で学んだことを毎週持ち帰り、社に戻ればすぐさま社内での改善を重ねました。例えば、原価計算をするにも正確なデータの重要性を理解しました。経営者として管理者へ様々な指示を出すには、あいまいな言葉でなく、具体的な数字に基づいたものでなければなりません。

また、単純に数字を示せるだけではなく、数字の意味、数字が教える課題などを読み解けるようになるなければなりません。こうしたことを繰り返すにつれて、法人設立後5期目には、物流経営士課

程で学んだ成果が実り、売上げ自体は下がりましたが、ようやく利益は出せるようになりました。

さらに、21年にはパソコンのスキルやデータ分析に長けた人間を採用して社内「情報管理室」を設置し、車両別原価管理をスタートしました。管理表の作成を専門に行う人間を配置したことで、私たちが管理者はデータを分析する能力を養成することに専念できたと思えます。現在に至るまでPDCAサイクルを繰り返して、何度も社内のルール、フォーマットを改編しています。

この仕組みづくりにより、リアルタイムな分析と具体的な対策をとることが可能になり、経営判断にスピード感をもたせることができました。また、弊社では、従業員の時間給制への移行を進めています。下地として16年に全車両にデジタルタコグラフを導入してから、このデータをもとに18年6月には歩合人事考課制度をスタートするとともに勤務記録データの入力を開始しました。

さらに、22年には本格的に時間給制を導入する方針を決定し、すぐにシミュレ

物流経営士講座で学んだことの中で、講師の一番心に残っている言葉は、「運送事業で原価を下げ利益を上げるためには、極力モノを動かさないこと」ということでした。まさに発想の転換で、この言葉で一気に目が覚めた思いでした。入学するまでは、会社の規模が小さいせいもあり、自分でハンドルを握ることも少なくなく、経営者というよりはドライバーの延長のような気持ちであったと思います。人より大きい荷物を入庫すると錯覚していたのです。入学後は、物流大

「自己流」経営に限界感じ 物流大学校の門を叩く

「物流経営士の講座を受講してどのように感じましたか。また、ご自身を含め御社の中でどのような変化が起きましたか。」

「これはこれから物流経営士を目指す方に一言お願いします。」

私は、愛知県トラック協会・中部トラック総合研修センターで開講された第11期講座に入学して、東北から沖繩まで私を含めて57人の仲間と受講しました。様々な業態の事業者の方と一緒に約1年過ごしましたが、物流大スクールに通って物流に関する知識を学ぶことが大事なように、こうした同期の仲間との交流も非常に貴重な体験だったと思っています。皆さんがおのおのの目的をもって入学されてき

たわけで、私の物流に対する考え方も大きく変わるなど、たくさんの方に感化されたことは確かです。

なお、私見ではありますが、物流経営士資格認定の講座は、ぜひ、管理者層の中でも「経営者」の方に受講していただきたいと思えます。知識を身に付け、データを積み上げ、事業計画（経営改善計画）を立案し、係数に基づく経営をマネジメントするようになること、そこからは、経営者としての経営理念という覚悟が問われます。だからこそ、経営トップである必要があります。私が物流経営士という資格取得にチャレンジしたことは、そのほんの入口であったと思っています。

入学したての頃、私は経営について悩んでいました。私のように悩んでいる経営者はとても多いと思います。そういう方こそ、物流経営士の講座受講をきっかけに勉強する習慣をつけて開眼し、そこから「意識改革」「経営改革」へと道筋をつけていただきたいと思っています。

物流経営士講座で学んだこと、原価計算などはおろそかになっていました。しかし、売上が伸びる一方で、大きな赤字が発生したことから愕然としました。この時、事業経営の知識・経験不足を、また、「自己流」の経営に限界を感じて、経営知識を学ぶために物流大

学校で学んだことを毎週持ち帰り、社に戻ればすぐさま社内での改善を重ねました。例えば、原価計算をするにも正確なデータの重要性を理解しました。経営者として管理者へ様々な指示を出すには、あいまいな言葉でなく、具体的な数字に基づいたものでなければなりません。

また、単純に数字を示せるだけではなく、数字の意味、数字が教える課題などを読み解けるようになるには、こうしたことを繰り返すにつれて、法人設立後5期目には、物流経営士課

程で学んだ成果が実り、売上げ自体は下がりましたが、ようやく利益は出せるようになりました。

さらに、21年にはパソコンのスキルやデータ分析に長けた人間を採用して社内「情報管理室」を設置し、車両別原価管理をスタートしました。管理表の作成を専門に行う人間を配置したことで、私たちが管理者はデータを分析する能力を養成することに専念できたと思えます。現在に至るまでPDCAサイクルを繰り返して、何度も社内のルール、フォーマットを改編しています。

この仕組みづくりにより、リアルタイムな分析と具体的な対策をとることが可能になり、経営判断にスピード感をもたせることができました。また、弊社では、従業員の時間給制への移行を進めています。下地として16年に全車両にデジタルタコグラフを導入してから、このデータをもとに18年6月には歩合人事考課制度をスタートするとともに勤務記録データの入力を開始しました。

さらに、22年には本格的に時間給制を導入する方針を決定し、すぐにシミュレ

「自己流」経営に限界感じ 物流大学校の門を叩く

「物流経営士の講座を受講してどのように感じましたか。また、ご自身を含め御社の中でどのような変化が起きましたか。」

これはこれから物流経営士を目指す方に一言お願いします。

私は、愛知県トラック協会・中部トラック総合研修センターで開講された第11期講座に入学して、東北から沖繩まで私を含めて57人の仲間と受講しました。様々な業態の事業者の方と一緒に約1年過ごしましたが、物流大スクールに通って物流に関する知識を学ぶことが大事なように、こうした同期の仲間との交流も非常に貴重な体験だったと思っています。皆さんがおのおのの目的をもって入学されてき

たわけで、私の物流に対する考え方も大きく変わるなど、たくさんの方に感化されたことは確かです。

なお、私見ではありますが、物流経営士資格認定の講座は、ぜひ、管理者層の中でも「経営者」の方に受講していただきたいと思えます。知識を身に付け、データを積み上げ、事業計画（経営改善計画）を立案し、係数に基づく経営をマネジメントするようになること、そこからは、経営者としての経営理念という覚悟が問われます。だからこそ、経営トップである必要があります。私が物流経営士という資格取得にチャレンジしたことは、そのほんの入口であったと思っています。

入学したての頃、私は経営について悩んでいました。私のように悩んでいる経営者はとても多いと思います。そういう方こそ、物流経営士の講座受講をきっかけに勉強する習慣をつけて開眼し、そこから「意識改革」「経営改革」へと道筋をつけていただきたいと思っています。

物流経営士資格認定の講座は、ぜひ、管理者層の中でも「経営者」の方に受講していただきたいと思えます。知識を身に付け、データを積み上げ、事業計画（経営改善計画）を立案し、係数に基づく経営をマネジメントするようになること、そこからは、経営者としての経営理念という覚悟が問われます。だからこそ、経営トップである必要があります。私が物流経営士という資格取得にチャレンジしたことは、そのほんの入口であったと思っています。

会社概要

(株)中田商事
[中田 純一 代表取締役社長]

本社 三重県伊賀市荒木野々浦893-1
設立 平成12年4月
資本金 800万円
従業員数 68人
車両数 43台

